

別紙様式1（第20条 第2項関係）

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 9件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
マウス			ウシ	8	91	ニワトリ		
ラット			ブタ	1	67	ウズラ		
ハムスター			ヤギ			アヒル		
モルモット			ヒツジ			カラス		
トウモロコシ			イヌ			爬虫類		
ウサギ			ネコ			動物種	件数	飼養数
			サル					
			イノシシ					
			タヌキ					
2. 動物実験の主な内容								
令和7年度に実施した動物実験の主要な目的および実験方法は次のとおり。								
(1) 乳用牛の飼養試験（2件）								
<ul style="list-style-type: none"> 低品質粗飼料や未利用資源の給与が、消化性、ルーメン内発酵、窒素代謝に及ぼす影響を調べるため、血液および第一胃内容液を採取した。採取にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。 プロバイオティクス飼料の給与が、乳房炎発症を予防する効果を検証するため、血液および第一胃内容液を採取する予定であったが、試験計画の都合上、7年度の採取は実施しなかった。 								
(2) 肉用牛の飼養試験（3件）								
<ul style="list-style-type: none"> 交雑種去勢牛肥育において、トウモロコシサイレージを用いた効率的な肥育方法を検討するため、血液および第一胃内容液を採取した。 黒毛和種去勢肥育における牛肉中不飽和脂肪酸割合の改善に向けた脂肪酸カルシウムの効果的な給与方法を検討するため、血液および第一胃内容液を採取した。 交雑種肥育における暑熱の影響調査と有用資材を利用した暑熱対策を検討するため、血液および第一胃内容液を採取した。 <p>なお、上記3つの試験における血液および第一胃内容液の採取にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。</p>								

(3) 乳用牛の繁殖に関する試験 (3件)

- ・ 卵巢静止の乳用種未経産牛に対するホルモン製剤の効果を検討するため、エストラジオール製剤及び膣内留置型プロジェステロン製剤 (CIDR) を投与した。投与にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。
- ・ 体外受精卵の受胎率向上技術を検討するため、乳用牛から外科的措置 (経膣採卵) により未受精卵を採取した。採取にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。
- ・ カシューナッツ殻液が乳用牛の体内受精卵採卵成績に及ぼす効果を検証するため、採血および外科的措置 (体内受精卵採取) を行った。採血および体内受精卵採取にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

(4) 豚の飼養試験 (1件)

- ・ 豚のストレス緩和法を検討するため、採血、外科的措置 (断尾)、薬理的措置 (鎮静剤投与) を行った。採血、断尾、鎮静剤投与にあたっては、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

別紙様式1（第20条 第2項関係）

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	6			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：低品質粗飼料の効率利用と未活用資源の有効利用に向けた混合飼料給与が消化性、ルーメン内発酵、窒素代謝に及ぼす効果の検証】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血は、供試牛6頭で、1頭あたり3回実施した。 ・第一胃液の採取は、供試牛6頭で、1頭あたり3回実施した。 ・採血及び胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。 								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	24			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数

【課題名：牛乳房炎発症予防法と抗病性育種の開発事業】

2. 動物実験の主な内容

- ・採血は実施しなかった。
- ・第一胃液の採取は実施しなかった。
- ・糞便の採取は実施しなかった。
- ・肝臓組織の採取は実施しなかった。
- ・子宮内膜細胞の採取は実施しなかった。

試験計画の都合上、令和7年度の採材は実施しなかった。

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	12			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：交雑種去勢肥育牛における自給飼料を活用した肥育期間短縮技術の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容 試動物：交雑種去勢牛12頭 (場産牛：2頭(8月と畜)、導入牛：9頭(10月と畜)・1頭(8月緊急と畜))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血：場産牛4回(R7年4～7月 1ヵ月毎) <li style="padding-left: 20px;">導入牛6回(R7年4～9月 1ヵ月毎) ・第一胃内容液採取：場産牛2回(R7年4～7月 各肥育中盤・終了時) <li style="padding-left: 20px;">導入牛3回(R7年4～9月 各肥育中盤・終了時) <p>採血および胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ブタ	1	67			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：日本版アニマルウェルフェアに配慮した豚のストレス緩和法の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <p>子豚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断尾は、供試頭数55頭に実施した。 ・鎮静剤の投与は、断尾実施頭数のうち28頭に実施した。 <p>母豚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾静脈からの採血は、供試頭数12頭に対し3回、合計で36回実施した。 <p>採血、断尾、鎮静剤投与は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。</p>								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	6			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：乳用種未經産牛における効果的なエストラジオール製剤併用 CIDR シンクプログラムの検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <p>卵巣静止の乳用種未經産牛6頭にエストラジオール製剤及び膈内留置型プロジェステロン製剤 (CIDR) を使用した定時人工授精※を実施し、CIDR の留置期間別に繁殖成績を比較調査した。</p> <p>※ホルモン製剤の投与は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p> <p>※定時人工授精のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CIDR を8～12日間膈内に留置 ・ CIDR 留置時及び抜去翌日の計2回エストラジオール製剤を筋肉注射 ・ CIDR 抜去2日後に人工授精を実施 								

別紙様式1（第20条 第2項関係）

動物実験等の実施状況
（7年度）

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	6			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：体外受精卵の受胎率向上技術の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容 屠畜場由来の卵子から培養および凍結方法の組合せが異なる体外受精卵を作成し、より高品質となる組合せを選定する。 この手法により所内供卵牛を用いて経膈採卵で体外受精卵を作成し、所内繫養牛（OPU実施牛とは異なる）に受精卵移植を行い、受胎率を検証する。</p> <p>R7年度実績は下記のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経膈採卵：0頭 ・受精卵移植：のべ6頭 <p>受精卵移植は熟練した技術者が短時間で実施した。</p>								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	12			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：黒毛和種去勢肥育における牛肉中不飽和脂肪酸割合の改善に向けた脂肪酸カルシウムの効果的な給与方法の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容 供試牛：黒毛和種去勢牛12頭（1頭除外につき、途中より11頭） ・採血は、供試牛11頭で1頭あたり6回、1頭で5回実施した。 ・第一胃液の採取は、供試牛12頭で1頭あたり2回実施した。 ・供試牛11頭に第一胃内pHセンサーを経口投与により留置した。 ・採血および胃液の採取並びに第一胃内pHセンサーの経口投与は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	13			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：カシューナッツ殻液が乳牛の体内受精卵採胚成績に及ぼす効果の検証】</p> <p>2. 動物実験の主な内容 カシューナッツ殻液が乳牛の体内採胚成績に及ぼす効果を検証する目的で、所内供卵牛をカシューナッツ殻液添加群（以下試験群）と非添加群（以下対象群）に分けて体内胚採取を実施し、採卵成績また血液生化学検査成績（添加群はPre・Post、非添加群はPostのみ）を比較する。</p> <p>採血 : 5頭のべ12回 体内卵採取 : 5頭のべ6回</p> <p>採卵および採血は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況
(令和7年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	12			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：交雑種肥育における暑熱の影響調査と有用資材を利用した暑熱対策の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血は、供試牛12頭中6頭で、1頭あたり3回実施した。 ・第一胃液の採取は、供試牛12頭中6頭で、1頭あたり2回実施した。 ・胃内貯留センサは、供試牛12頭中6頭に挿入した。 ・採血、胃液の採取、および胃内センサの挿入は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。 								